

医療法人錦秀会 阪和記念病院 看護職員の負担軽減及び処遇の改善計画

項目	通年目標	令和4年度		令和5年度	
		追加目標と具体策及び達成度		追加目標と具体策及び達成度	
院内システムのリプレース 電子カルテ導入への教育	1. 各職員への電子カルテとシステム研修の実施 2. 電子カルテの運用方法の都度見直し 3. 情報システム委員会の開催継続	1. 継続（新入職は4月中途採用は都度） 2. 継続 3. 1回/2か月グループ内と院内にて会議開催	100%	1. 継続（新入職は4月中途採用は都度） 2. 継続 3. 月1回定例のグループ内と院内にて会議開催	
保育所の充実	1. 全職員を対象に院内保育所設置 2. 提携会社との連携強化 3. 産休、育休後の職場復帰の推進充実 4. 入所児や職員の感染症発症時の協力と適切な対応	1. 採用面接時や育休明けに保育所の見学実施 2. 夜間保育可能日程の調整 3. 継続 4. 継続	100%	1. 採用面接時や育休明けに保育所の見学実施 2. 継続 3. 継続 4. 継続	
福利厚生への充実	1. 福利厚生提供会社ベネフィットワンの加入と利用率の向上	1. リフレッシュ休暇の促進 ベネフィットワンの月刊発行誌の配布	80% 100%	1. リフレッシュ休暇・年末年始休暇・有給休暇の促進 ベネフィットワンの広告、desknetsNEOで発信	
職員への周知	1. PCネットワークの活用 2. 主要文書をネットワークで保存し、全職員で情報の共有を図る 3. 院内研修計画の作成と研修の実施	1. 各種委員会の議事録、その他のニュースなど周知文書の配信 3. 看護に必要な情報や医師他コメディカルと共有できる研修を開催	100% 100%	1. 各種委員会の議事録、その他のニュースなど周知文書の配信 3. 看護に必要な情報や医師他コメディカルと共有できる研修を開催	
看護職員の確保 魅力ある病院づくり	1. 看護配置急性期10:1、HCU4:1、回復期リハビリテーション15:1、地域包括ケア13:1、療養病棟20:1の維持 2. 急性期看護職員夜間配置12:1の維持 3. 臨床実習病院としての役割を担い、学生の実習を充実させる 4. 新人看護師教育体制の充実 研修や会議の時間を30分制にする 時間外会議や研修の禁止 5. 看護師の求人及び離職率の低下に努める 6. ホームページによるPR 7. 時短勤務者への配慮 8. 育児休暇取得の推進 9. インターンシップや病院見学を積極的に実施し、新人看護師の確保に努める	1. 継続 2. 看護師人員不足にて中止 3. 学校法人阪和学園や医療系大学の臨床実習を行い、新入職者の確保に貢献する 4. ラダーI～V及び臨床実習指導者、実地指導者、看護補助者の研修を年間計画し、遂行する 5. 教育担当者や実地指導者による教育体制を充実し離職防止をする 看護職員の定期的な面接実施（年2回） 新入職者は7.11月（2回/年）の看護部長面談を実施し離職防止を図る 6. 法人内での看護師募集活動の実施と人員不足時の補充体制ができていない（本部人事課の協力） 7. 継続	100% 100% 70% 100% 100%	1. 継続 2. 看護師人員不足にて中止 3. 学校法人阪和学園や医療系大学の臨床実習を行い、新入職者の確保に貢献する 4. ラダーI～V及び臨床実習指導者、実地指導者、看護補助者の研修を年間計画し、遂行する 5. 教育担当者や実地指導者による教育体制を充実し離職防止をする 看護職員の定期的な面接実施（年2回） 新入職者は7.11月（2回/年）の看護部長面談を実施し離職防止を図る 6. 法人内での看護師募集活動の実施と人員不足時の補充体制ができていない（本部人事課の協力） 7. 継続（出勤・退勤時間の両方に対応する） 時短勤務者の残業が発生しないよう調整する 8. 男女ともに育児休暇の申し出に速やかに対応し、育児への不安の軽減に協力する 9. 人事課と協力し、学生の要望や意見を聞きながら実施していき、働きやすさを伝える	
空床状況の把握 緊急入院の受け入れ対応	1. 入退院調整業務について、コメディカル部門との連携をはかり、毎朝病床会議の実施する 2. 病床管理委員会を継続（月1回）	1. 外来部門責任者がベットコントロールMSWとの協働（特に退院調整） 訪問看護ステーションとの協力（退院時） 入退院支援看護師（看護部責任者）の配置 予約入院患者への情報収集や計画書の作成 2. 継続	100%	1. 外来部門責任者がベットコントロールをし、効率の良いベットコントロールを目指す 入退院管理部に看護師（看護部責任者）の配置 予約入院患者への情報収集や計画書の作成 退院カンファレンスの早期実施 2. 継続	
夜勤時のトラブル	1. 夜間救急受付に警備員を配置 2. 看護師が業務に専念できるよう体制を整える（放射線部・検査部・事務部・薬剤部の協力体制） 3. 緊急時の連絡網の確認	1. 警備員・事務・警察OBの協力 2. 継続 看護師間の協力体制（緊急入院や手術、急変時） 3. 継続	100%	1. 継続 2. 継続 看護師間の協力体制（緊急入院や手術、急変時） 3. 継続	
薬剤管理（薬剤師のサポート）	1. 持参薬管理、服薬指導（退院時を含む）の実施 2. 患者の内服情報や医薬品の副作用情報交換や照合	1. 継続 看護師間の協力体制（緊急入院や手術、急変時） 2. 継続		1. 看護師間の協力体制（緊急入院や手術、急変時） 2. 継続	

	<ul style="list-style-type: none"> 3. 使用方法の確認が必要な場合の医師への情報提供の実施 4. 病棟内の薬剤管理業務の充実化 5. 点滴準備や化学療法業務への関与 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 継続 4. 継続 病棟担当薬剤師の検討 5. 継続 	100%	<ul style="list-style-type: none"> 3. 継続 4. 病棟担当薬剤師の検討 5. 継続
リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 1. 転倒転落等によるリスク因子の軽減に向けた取り組み 2. セラピストによる院内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1. PT が病床管理委員会や身体拘束廃止委員会へ参加 退院カンファレンスに担当 PT の参加 2. 継続 	100%	<ul style="list-style-type: none"> 1. セラピストが病床会議や身体拘束廃止委員会へ参加 退院カンファレンスに担当セラピストの参加 2. 継続
看護補助業務	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護補助者 25 対 1 で配置継続 2. 夜間看護補助を 100 対 1 で配置継続 3. 看護補助業務の遂行及び業務枠の拡大 4. 介護サポーターの導入と業務の区別 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 看護補助者数が運用人数より少ないため、業務の見直しを適宜実施 4. 継続 	100%	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 業務の見直しを適宜実施 4. 継続
病棟クランクの育成	<ul style="list-style-type: none"> 1. 病棟クランク業務の充実と業務枠の拡大 2. 各病棟 1 名の配置継続 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 業務内容に病棟間の相違が無いよう調整 2. 継続（休みの時は応援体制をとる） 	80%	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続（業務内容に病棟間の相違が無いよう調整） 2. 継続（休みの時は応援体制をとる）
医療機器管理	<ul style="list-style-type: none"> 1. 臨床工学技士による医療機器の使用手順などの指導を受け業務を円滑、安全に遂行 2. 在宅人工呼吸器や CPAP 導入患者に対する機器使用に関する指導 3. 院内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 継続（臨床工学技士や業者の協力） 	100%	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 継続（臨床工学技士や業者の協力）
栄養サポート	<ul style="list-style-type: none"> 1. 栄養（NST・褥瘡）チーム活動の充実 2. 管理栄養士による栄養指導件数の増加 3. 入院患者の嗜好調査実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 継続 	100%	<ul style="list-style-type: none"> 1. 継続 2. 継続 3. 継続